

I 概 要

桜井市議会文教厚生委員会所属議員行政視察

1 期 日 令和 5 年 10 月 17 日（火）～18 日（水）

2 派遣委員 （委員長）大西 亘 （副委員長）久保田 裕一
 （委 員）東 俊克 （委 員）大園 光昭
 （委 員）杉山 歳和 （委 員）島岡 誠
 （委 員）鍛冶 結花

議 長 札辻 輝巳

以上 8 名

3 視 察 地

1 日目（10 月 17 日）

- ・ 岐阜県瑞穂市
瑞穂市役所

2 日目（10 月 18 日）

- ・ 岐阜県羽島市
羽島市役所



4 視察目的

【瑞穂市】

子育て支援員活用について調査する。

【羽島市】（滋賀県 野洲市議会 文教福祉常任委員会委員と合同視察）

運動部活動のクラブ化について調査する。

本委員会の所属議員は、議会の議決を得て、上記のとおり派遣を許可され、視察事項のとおり研修を行いました。

Ⅱ 研修内容のまとめ

子育て支援員活用について（岐阜県瑞穂市）

瑞穂市役所において、事業内容等について説明を受けた後、質疑応答を行う。

●事業内容

瑞穂市は県下でも交通至便な位置にあり、子育て世代等の転入者が多く、また、近年では子を持つ親の就労形態の変化などから保育ニーズは年々増加しているが、保育士の確保は毎年横ばいで、保育士確保に支障をきたしている。

そこで、特に子どもの送迎で出入りが激しい朝・夕の時間帯に配置される、保育士2人のうち1人は研修で必要な知識や技術を取得した「子育て支援員」を活用することを内閣府に提案し、国の保育士の配置要件が一部緩和された。

これにより、平成28年度から瑞穂市が定めた「子育て支援員研修」を実施し、平成29年度から瑞穂市立保育所では朝・夕の時間帯を中心に子育て支援員が保育士の補助者として保育に従事されている。代替職員の配置が可能になるため、保育士の人員不足の解消や負担軽減につながり、待機児童の解消、子育てサービスの充実が可能になってきている。

また、保育士の確保に向け保育士の収入の引き上げの実施や、「保育士の離職防止」と「保育所の勤務環境改善推進」を目的に「保育士等支援アドバイザー」を設置されている。

子どもたちに「より良い保育を提供し、健やかな育ちへつなげること」を目的として保育の質の維持に努められている。

●主な質疑応答

問. 子育て支援員の活用により、やってよかったこと、また改善点等はあるのか。

答. 朝早く、夜遅くの時間帯のニーズがかなり増えてきている状況の中、子どもが主の職場に子育て支援員がいることで保育士に心の余裕ができることは貴重であり、保育士の人員不足にも助かっている。

改善点としては、仕事の役割分担の中で子育て支援員の仕事である「補助的な仕事」の線引きがむずかしいところであり、明確にしていくところがある。

問. 子育て支援員が正職員を希望されたらどうしているのか。

答. 支援員の資格だけではなれない。

保育士と幼稚園教諭の資格を持ち、募集があれば可能。

問. 子育て支援員研修費用（受講料）は不要ということだが、どうしているのか。

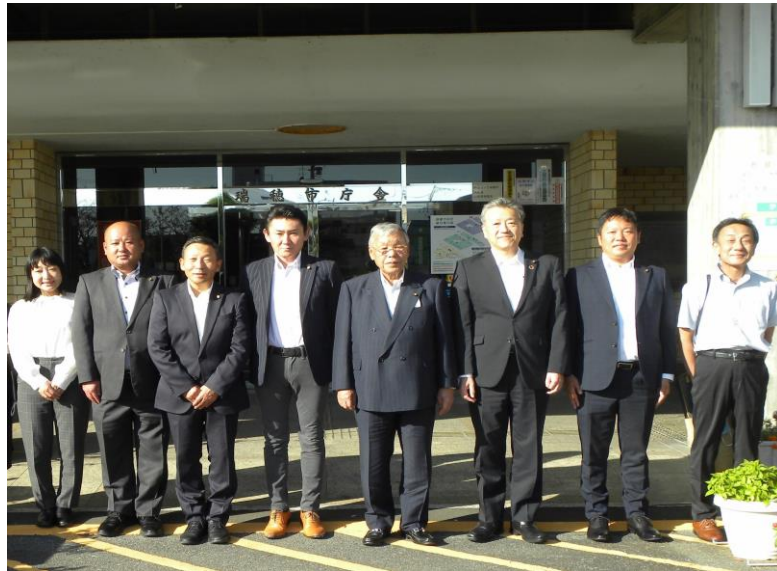
答. 国の補助金を活用し、残りは市が負担している。

問. 子育て支援員の年齢制限はあるのか。

答. 体力に自信があるかどうかは確認するが、基本は年齢制限はなし。

●所感

「子育て支援員の活用」という制度改正に取り組み、成果を得たことは大いに評価すべきところである。本市が、待機児童や保育現場の人不足等の政策を進めていく上でも非常に参考となるものであり、意義のある視察となった。



運動部活動のクラブ化について（岐阜県羽島市）

羽島市役所において、滋賀県野洲市議会文教福祉常任委員会委員と合同で視察を受ける。

事業内容等について説明を受けた後、質疑応答を行う。

●事業内容

羽島市の中学校では、平日の放課後は学級活動や行事に充てることが多く、休日に実施していることが多い。

また部活動は、保護者が中心となっている「部活動育成会」が支援し、部活動育成会の保護者が部活動の運営に関わっている。

こうした状況において、平成30年度羽島市立竹鼻中学校の部活動育成会の保護者の「生徒のニーズにこたえられない」、「先生の異動で、競技力の維持ができない」「保護者の負担が大きい」という声をきっかけに、中学校（竹鼻中）が動き出し、令和元年度に中学校校長とスポーツクラブが教育委員会に協力依頼をし、意見交流会の実施や、指導者研修会の実施など行政との連携が始まった。

また、竹鼻中学校は、部活動改善委員会を校内に立ち上げ、地元スポーツクラブのはしまなごみスポーツクラブへ相談し、意見交換を行った。はしまなごみスポーツクラブは「子供たちの活動環境を整えたい」「学校や地域の困りごとを助けてい」という思いから、令和2年度休日の地域部活動（クラブ化）の受入れを表明され、竹鼻中学校の土・日・祝日の部活動（運動部）が地域部活動（クラブ）としての活動に移行した。生徒は「平日の部活動と休日のクラブの両方」「平日部活動のみ」「休日のクラブのみ」を自由に選択できる。

令和3年度から徐々に羽島市内の中学校を3つのスポーツクラブが地域別に担当され、生徒への支障がでないように連携を強化し地域移行へと取り組まれている。

●主な質疑応答

問. クラブがある企業からは部活動の指導者として支援を受けておられるのか。

答. 市内にある企業の選手がコーチとして登録されて、部活動の支援をしている。

問. 安心、安全にクラブ化の移行をするにおいて、行政として求めるものはなにか。

答. 指導者や保護者、地域の方、行政としても子どもの目線、子どもたちの満足で考えることを第一に考えて取り組んでいる。

問. この視察で一番何を紹介するべきか。

答. 同じ市内でも中学校によって部活動のとらえ方、文化、保護者の熱量が全く違うので、実情に合わせ、課題にきちんと目を向ける必要がある。そこにスポットを当て改革を進める必要があり、関わる方すべての力が必要である。

●所感

学校現場の働き方改革や、生徒の減少や偏在による部活動困難な学校の部活動継続には、有用な取組である。

一方で、地域関係者や保護者の協力、理解が大いに求められる事業であり、丁寧な対応は非常に参考になった。

本市での導入を進めていく上で意義のある視察となった。

